



N K C

中西金属工業株式会社

Nakanishi Metal Works Co., Ltd CSR Report 2018



CSR報告書 2018

2017年4月-2018年3月期 活動報告

NKCのご紹介	02
会社概要／拠点一覧／事業内容／NKCの歴史	
代表者あいさつ	05
社会に対するNKCの使命	06
特集:100年企業への道	07
特集① 従業員の積極的な社会参加を支援	07
特集② 一人ひとりの個性や働き方を尊重	09
特集③ 国境を越えた環境活動	11
特集④ 新事業の創出:農業ビジネス参入	14
詳細報告:従業員とともに	15
雇用・育成・活躍促進	15
安全・健康管理	17
労使関係	18
詳細報告:お客様・取引先様とともに	19
品質保証・品質管理	19
調達責任・供給責任	21
リスクへの対応	21
詳細報告:地球環境とともに	23
環境負荷低減・地球温暖化防止	23
環境事業	25
生物多様性保全	26
詳細報告:地域社会とともに	27
社会貢献活動	27
共生意識の醸成	28
持続可能な社会への更なる貢献に向けて	29

この報告書について

編集方針

私どもNKCグループは、広く社内外のステークホルダーの皆さまへ、CSR活動に対する考え方や取り組み内容についてお伝えするために「NKCグループCSR報告書」を発行しています。「NKCグループCSR報告書」を通じて、社外の皆さまには、NKCグループが一企業市民として社会的な責任を認識し果たしていくことを表明し、また、NKCグループ内においては、国内外の各拠点並びに各事業部・部門間の情報共有や有効なCSR活動を促進するための資料の提供を行っています。本「CSR報告書」の作成にあたっては、前年度発行「CSR報告書2017」のアンケートに寄せられたご意見を反映し、ステークホルダーの皆さまにお読み頂きやすい報告書となるよう配慮しています。

報告対象範囲

NKCグループの活動を中心に、グループ関連会社の活動についても記載しています。

■ 対象期間

2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日)

■ 発行時期

年次報告として2013年より毎年発行しています。
日本語版:2018年8月／英語版:2018年10月

■ 発行形式

年間の主なCSR活動についてまとめた「フルレポート」と、特集記事のみ抜粋した「ダイジェスト」を作成しています。

報告媒体

本「CSR報告書」の内容はNKCコーポレートサイトからもご覧頂けます。

冊子をご希望の場合は、当社担当者またはNKCコーポレートサイトお問合せページ(下記URLご参照)よりご請求下さい。




● NKCコーポレートサイトCSR報告書ページ
http://www.nkc-j.co.jp/eco_csr/csr_dl.html

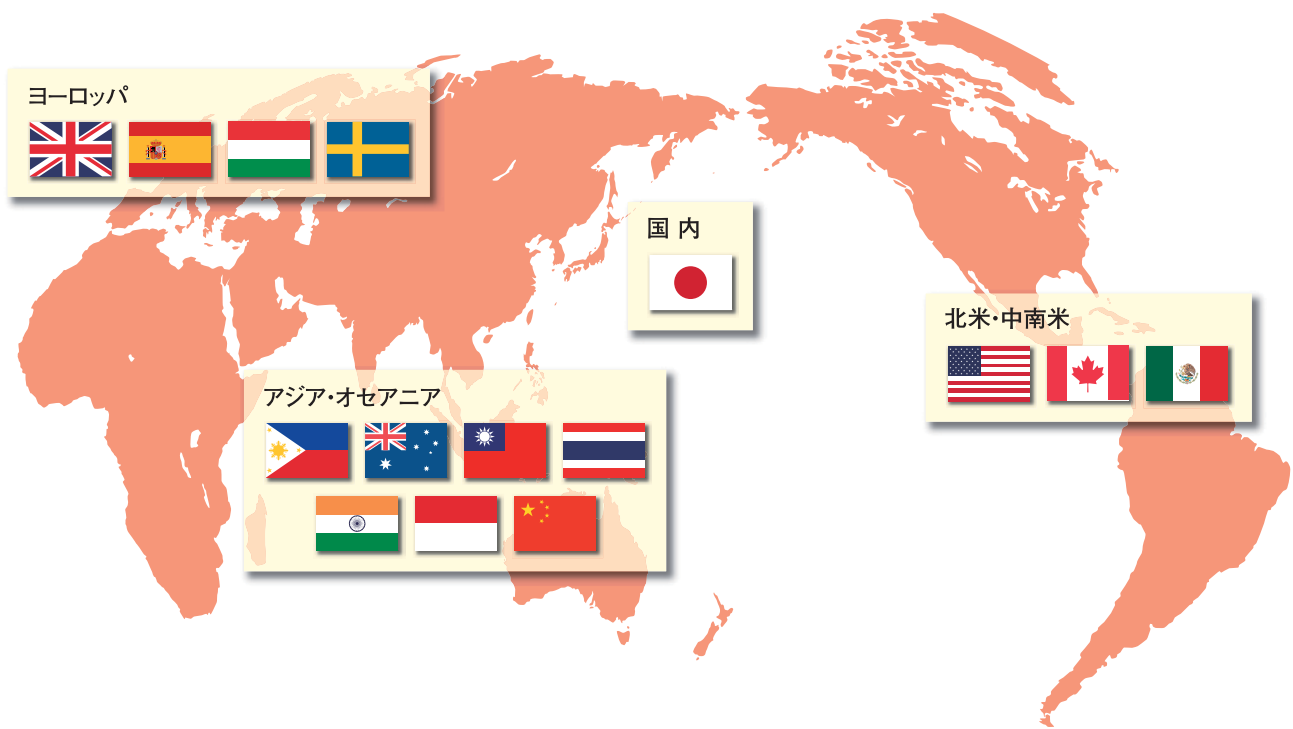
NKCのご紹介

NKCグループは、日々の生活を支える自動車や産業用機械などの心臓部で機械の動きを支え、より効率的な機械を動かすための部品であるベアリング・リテーナーをはじめ、各種プロダクト生産ラインのシステムに対応するコンベア、人々の住環境をより快適にするサッシ等の住宅向け部品を中心に、グローバルに事業を展開し、世界中の産業の発展や人々の生活の向上に貢献してまいりました。これまで培った経験と実績をもとに、高品質な製品とサービスを皆さまにご提供し、ステークホルダーの皆さまとともに、持続的な発展を目指します。

会社概要

社名: 中西金属工業株式会社 本社: 〒530-8566 大阪市北区天満橋3-3-5
 商標:  **NKC** 従業員: 4,469名
 設立: 1941年(昭和16年)6月19日 代表者: 中西 竜雄
 資本金: 25億1,250万円

拠点一覧



■ グループ拠点数

アジア・オセアニア

日本	12
中国	3
フィリピン	2
オーストラリア	1
台湾	1
タイ	1
インド	1
インドネシア	1

北米・中南米

アメリカ	2
カナダ	1
メキシコ	1

ヨーロッパ

スウェーデン	1
イギリス	1
ハンガリー	1
スペイン	1

■ グループ関連会社

中西興産株式会社
ノイエス株式会社
播州中西金属株式会社
シー・ティ・マシン株式会社
イーグローバレッジ株式会社
富士ホーニング工業株式会社
株式会社須田商事
アイ・エス・エイ株式会社

事業内容

NKCグループは、ベアリング・リテーナーやコンベア・システム、住宅部品など長い歴史の初期から続く事業に加え、近年は新規事業への取り組みも積極的に行っています。社会の著しい変化に対応しながら、皆さまのご要望の応えるべく、常に革新を続けていきます。

軸受事業部

機械製品の回転部分に使用されるベアリングの内蔵部品であるリテーナーを中心に、数多くのベアリング関連製品や自動車関連製品を取り扱っています。特にベアリング・リテーナーにおいては世界No.1のシェアを誇っています。精密機械から航空機まで幅広い分野で、お客様から高い評価と信頼を得ています。



金属製保持器



樹脂製保持器



ゴム製品



自動車部品

輸送機事業部

自動車づくりを支える製造ライン、コンベア・システムの設計から据え付け・保全まで、お客様の要望に適した効率的な生産ラインを製造・提供しています。国内シェアNo.2を誇り、世界中の自動車工場で稼働しています。また、牽引車やフォークリフトなどの物流関連製品も取り扱っており、近年は時代の要請に適った物流システムの開発を強化しています。



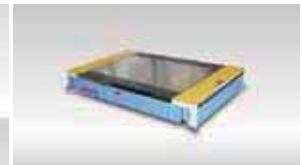
コンベア・システム



コンベア・システム



物流関連製品



物流関連製品

特機事業部

住まいの窓サッシに使用される金物製品をはじめとする住宅部品を取り扱っており、窓のスムーズな開閉を支える戸車のシェアは国内No.1を誇っています。また、近年はリフォーム・リノベーションやペット関連製品の製造販売といった事業にも取り組んでおり、住宅関連での事業展開を推進しています。



住宅部品



リフォーム・リノベーション(リフォーム前)



リフォーム・リノベーション(リフォーム後)

新規事業

上記に挙げた主力3事業以外にも、NKCでは新規事業への取り組みを以前から積極的に進めてきました。特に近年は以前にもまして新規事業開発に注力しており、農業や新電力など従来とは全く異なる分野へも参入しています。会社の持続的な発展のため、既存の事業・技術を大切にしながらも、常に先を見据えて事業活動に取り組んでいます。



製鉄・圧延事業



新電力事業



介護製品事業



セキュリティ機器事業



電子機器事業



環境関連製品事業



旅行・ホテル事業



農業関連事業

NKCの歴史

「2024年 創業100周年」。1924年の創業以来、社会の著しい変化に対応しながら事業を拡大させてきました。

企画・開発・設計・製造などのあらゆる場面でお客様を第一に考える企業文化を定着させ、世界各地のお客様から支持して頂けるよう、グループ一同、事業活動に取り組んでいます。

また、事業活動を通じて環境への配慮や地域社会への貢献なども積極的に進め、持続可能な社会への貢献とともに成長する企業を目指しています。

1924年(大正13年)

中西製作所の社名で創業、リテーナーの生産開始



1945年(昭和20年)

中西金属工業(株)に社名変更

1952年(昭和27年)

コンベアの生産開始

1960年(昭和35年)

三重工場を設立



1961年(昭和36年)

大阪工場を設立



1965年(昭和40年)

サッシ用戸車の生産開始



1973年(昭和48年)

滋賀工場を設立



1980年(昭和55年)

アメリカに初進出、輸送機工場を設立



1984年(昭和59年)

創業60周年に名張工場を設立



1988年(昭和63年)

アメリカに軸受工場を設立



1997年(平成9年)

アセアンに初進出、フィリピンに軸受工場を設立



2003年(平成15年)

中国に特機工場を設立



2005年(平成17年)

中国に輸送機工場を設立



2005年(平成17年)

中国に軸受工場を設立



2011年(平成23年)

欧州に初進出、スウェーデンに軸受工場を設立



2018年7月1日、さらなるブランド力の向上と強化のため、従来のロゴデザインを一新し、新たなロゴを公開しました。

この度のロゴの変更には、NKCCグループが創業以来、長きにわたり着実に技術の向上と品質の確保に努めてきたこと、グローバルに事業領域の拡大してきた実績、そして未来へ向かって更なる成長を続けるNKCCグループの姿を広く皆さまにお示しするデザインを採用いたしました。

代表者あいさつ

NKCグループの力を結集し、 豊かでイノベーティブな技術と製品・サービスで 持続可能な社会へ貢献します

代表取締役社長 中西 竜雄



私どもNKCグループは、創業以来、社会と産業の発展に貢献すべく、スピード感を持って柔軟に変化に対応することを大切に、様々な努力を重ねてまいりました。とりわけ、「より良い社会・世界・地球の創造」のために企業の社会的責任を全うし、時代に先駆けた技術やお客様のご要望にお応えする製品の提供のみならず、新たな価値を生み出すために、「働き方改革・ダイバーシティ・地球環境等への取り組み」を強化しております。NKCグループは、これからもステークホルダーの皆さまとともに、豊かで輝く未来を目指し、事業活動に取り組んでまいります。

■ CSR活動への取り組み ■

これまで、CSR活動を通じて社会的責任を果たすべく積極的に活動を行ってきました。2015年から参加している国連グローバル・コンパクトの意思と企業行動憲章に従い、2016年度には社員の行動原則となるNKCスタンダードを新たに制定しました。これらの社内浸透を図ることにより、NKCグループのCSR活動を促進してまいります。

■ ワーク・ライフ・バランスの推進と人材育成 ■

ワーク・ライフ・バランスの推進と魅力ある職場環境の形成を図ることで、従業員が能力を発揮し、多様な生き方を実現で

きるよう、従来の取り組みを更に強化していく目標を掲げています。また、従来から進めている女性の活躍推進に加えて、より広い視点からのダイバーシティ(性別・国籍・年代等の人材の多様性)を目指します。

■ 新規事業の開発 ■

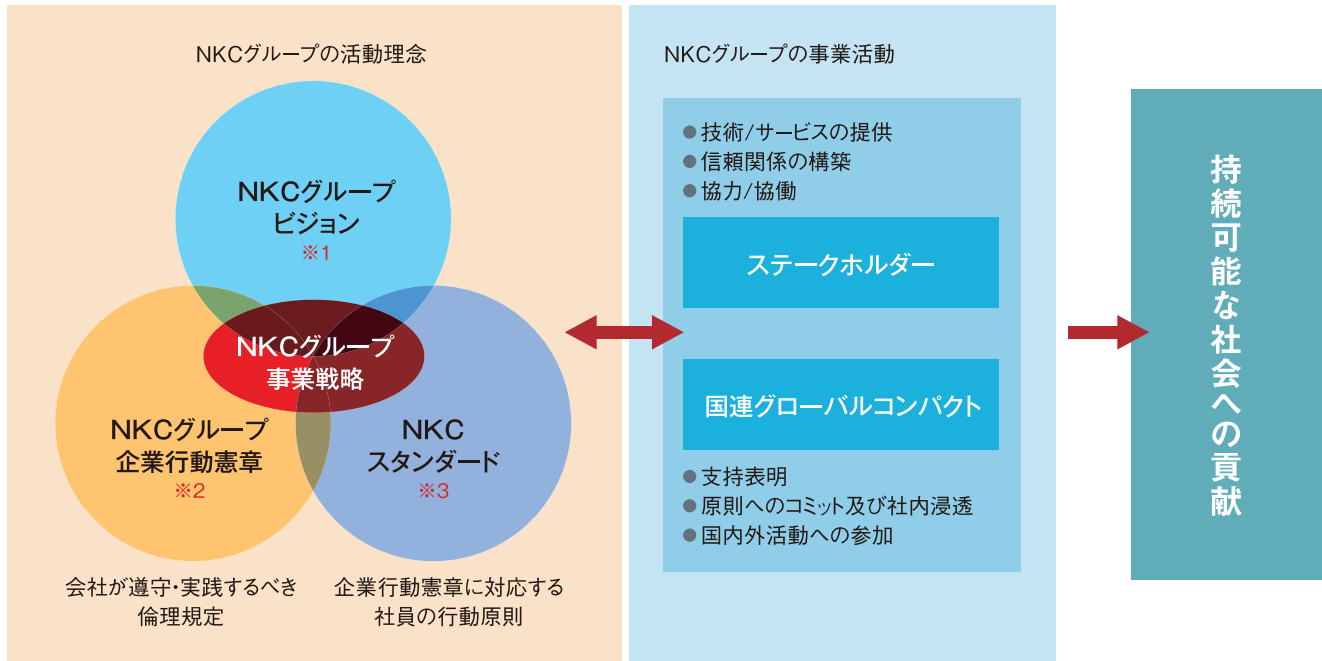
グループ全体の新たな柱となる事業の確立を目指し、新規事業開発に積極的に取り組んでいます。既存事業の研究開発強化、新規事業専任部門による新規市場・商材の探索に加え、AI、IoT、AR、VRに代表される新技術の活用に取り組んでいます。また、デザイン思考を活かした新規事業創出とデザインマネジメントにも挑戦しています。事業を取り巻く環境の変化や市場のニーズに対し柔軟かつ的確に応えていく新たな事業の創出を目指します。

NKCグループは、ビジョン「NKCは、社員が社員である事に誇りを持ち続け、常に変革する企業を目指す」を常に意識し、一人ひとりが、意欲的に社会課題に取り組み、持続可能な社会へ貢献してまいります。

社会に対するNKCの使命

活動理念

NKCグループは、「NKCビジョン」・「NKCグループ企業行動憲章」および「NKCスタンダード」に基づき事業活動を推進することで、社会課題を的確にとらえ、お客様やお取引先様をはじめ、従業員・地域社会・地球環境など広く社会に貢献できるよう取り組んでいます。



※1 NKCビジョン 基本的な考え方・目指す姿

NKCは、社員が社員である事に誇りを持ち続け、常に変革する企業を目指す

※2 NKCグループ企業行動憲章 会社が遵守・実践するべき倫理規定

1. 基本的使命:優良で安全な製品・サービスの提供
2. 社会的規範の遵守:法令遵守・公正競争・適正取引の徹底
3. 情報公開および情報の取扱い:透明性の高い情報公開と適正な情報管理
4. 人権尊重:人権の尊重と人権侵害行為の予防
5. 就業環境の整備:安全かつ健全で働きやすい職場環境の提供
6. 環境対応:積極的な環境活動と環境問題への予防性確保
7. 社会貢献:社会的課題の解決へ向けた積極的な取り組み
8. 反社会的勢力との対決:反社会的勢力および団体との関係遮断を徹底
9. 企業倫理の徹底:実効性のある社内体制整備と企業倫理の徹底
10. 問題解決:問題の原因究明・再発防止・情報公開・説明責任遂行

※3 NKCスタンダード 企業行動憲章に対応する社員の行動原則

- ものづくり(サービスを含む)を通して社会全体に貢献します
- 各国の法令を遵守し、誠実な事業活動を行います
- あらゆる情報の重要性を認識し、適切に取り扱います
- すべての人々の人権を尊重し、侵害行為に関わりません
- 安全で快適な職場環境の維持向上に努めます
- 環境保全・環境負荷低減に積極的に取り組み持続可能な社会を作ります
- 良き企業市民として地域社会の文化的・経済的な発展に貢献します
- 反社会的勢力との関係遮断を徹底します
- 経営トップが率先して倫理観の維持向上に努めます
- 問題の発生を未然に防止し、発生時には迅速かつ厳格に対処します

地球規模の課題を考える

NKCグループは、グローバルに事業を展開する企業として、日本国内だけでなく国際社会においても積極的に貢献していきたいと考えます。その一つとして、2015年4月、企業が社会の一員として行動することを促す国連の取り組み(国連グローバル・コンパクト/UNGC)に参加しました。これを機に、国連が求める人権や環境への配慮などに関する行動原則を実践することで企業としての責任を果たしていきます。



特集① 従業員の積極的な社会参加を支援

会社としてより良い社会づくりを目指すためには、従業員の協力が不可欠です。従業員が積極的に社会に関わろうとする気持ちや行動を応援し支援していくことで、社会と共生する意識を広く社内に根づかせます。



企業の使命は、社会に役立つ製品・サービスを提供し、その事業活動から得られた利潤を社会へ還元することにあります。加えて、従業員には企業の事業活動以外にも、積極的に社会に貢献し、積極的に社会へ価値を提供することが求められています。NKCグループでは、ボランティア活動を含む、様々な社会貢献に従業員自らが取り組むことを奨励しています。ボランティア活動等の経験を通じて、より広い視野を持ち、社会課題への関心や他者へ共感ができる人材が増えることが、NKCグループの発展にプラスになることを期待しています。

社会課題を誰にでも起こる問題ととらえ活動に取り組む

ホームレス問題に取り組んでいる認定NPO法人Homedoor（大阪市北区）にて、ボランティア活動に参加しています。野宿している人を訪ねて回る夜回りや、ホームレスの方向けにパソコンを教えたりしています。この問題は、生活保護の不正受給や、本人の努力不足といったイメージも先行しがちですが、知れば知るほど、いつ・だれにでも発生し得るものですし、そこからやり直そうとがんばっている人たちもたくさんいます。そこで、毎月の寄付という形でも活動に参加しています。Homedoorでは、ホームレス脱出の足掛かりとなる個室シェルター付き施設の運営も始まりました。関心のある方は是非一度チェックしてみてください。

本社 イノベーション室 山本 優介さん

何事もまずは始めること、そこから輪が広がっていく

20歳から、消防団や防災リーダーなどのボランティアをしてきました。今は地域のスポーツ推進委員と体育厚生委員を務めています。大阪マラソンでのボランティアや地元イベントで屋台を出すなど、活動の範囲は広いです。同じ目的のために参加者が、皆同じ立場で一緒に汗をかくことで仲間意識が育ち、活動の成果が出るのです。スポーツやイベントを通じて、年齢や地域を越えた様々な人々と交流し、協力してボランティア活動を行うことで、会社生活だけでは得られない喜びがあります。

皆さんもまずは活動に参加してみてください。活動がどんなものかが分かると、そこからどんどん輪が繋がっていき、豊かな人間関係をつくることができますよ。

大阪工場 岸本日出敏さん

常に周囲に目を向け

思いやりを持つことを大切にする

高校の3年間、ボランティア関係の部活動に参加していました。養護施設を訪問し、自作の紙芝居を披露したり、子ども達と一緒に遊んだり、多くの明るい子ども達と触れ合うことができた、とても楽しい経験でした。元々、子どもと関わることが好きで活動に参加していましたが、今は、ユニセフマンスリー募金や「子ども食堂」、フードバンクなど、国内外の子ども達のための活動に関心を持っています。また、ヘルパーの資格を取り、高齢化社会で自身ができることを考えています。

自分が当たり前でできていることもできない人がたくさんいることを忘れずに、また、周囲への思いやりがボランティア活動の一步だと思えます。良いことをすれば気持ちが良いですし、気遣いは職場や社会を明るくしてくれます。私自身は大阪工場の清掃活動にも積極的に参加していますので、会社からボランティア活動の案内があれば、今後も是非参加したいと思っています。

大阪工場 田中千里さん

自身の活動が

会社の印象向上にも繋がることを意識

障がいのある子ども達と地域の小学生とが一緒に遊ぶというボランティア活動を、土日を中心に年5回ほど行っています。1回の活動時間は5～6時間くらいですが、約20年間関わっています。健常児の子ども達と障がい児がともに時間を過ごすことで、お互いが、お互いのためにできることを自然と学ぶようになり、大人の私達も改めて気づくことが多くあります。

現在は役員として活動に従事するとともに、次世代の活動へ繋げるためにサポートしています。

また、私自身は、地元滋賀の花火大会に寄付をしています。これは「NKC」がクリーンな印象を持たれるようにと思ひ、自主的に行っています。これからも、お年寄りや体の不自由な方々へそっと手を差し伸べるような、優しい気持ちを持って活動していきたいと思っています。

滋賀工場 山本秀明さん

仕事での繋がりや学びも大切に、 貢献活動に活かす

学生時代は、社会の一員として何かをしてみたいという気持ちから大学で国際協力を専攻し、ボランティア部で活動していました。学外では企業主催の青少年育成事業において、参加学生の教育研修を行うなど、様々なボランティア組織に関わり社会経験をえました。また、アジアボランティアセンターが主催しているネパールへのフィールドワークに参加し、国際感覚を身に付けた経験が、外国籍従業員の支援という現在の業務に繋がっていると感じています。社会人になってからは、終業後に社会課題をディスカッションする場に参加し勉強を続けると同時に、今後は週末ボランティアへの参加を検討しています。また、NKCで得た経験を活かして、「テレワーク推進」をテーマにしたイベントに協力し、参加費を集めることでフィリピンの孤児院を支援するための資金集めに協力しました。これからも、個人としてNKCグループの一員として社会貢献していきたいと思っています。

本社 人事総務部 近藤江里加さん

活動を通じてあらゆる人々と繋がり 世界観を広げる

宇都宮市内の体育事業で役員をしています。元々バレーボールをやっていたことから、選手としてスポーツイベントに参加し、その後、支部長から役員へと足かけ20年間活動しています。年間を通じてバレーボールやソフトボール、野球、卓球などの球技に携わっていますが、活動が活発な地域であることから、老若男女問わず参加できる行事が多いです。この他にも役員の仕事として、各地域の支部長を集めての会議や地域のお祭り・子ども会への協力など、年間10か月ほどを活動に充てています。ボランティア活動を通じて、地域との交流や接点ができ、普段出会えない人々との交流を持つこともでき、自分自身の世界観が広がりました。今後も今のモチベーションのまま活動を継続していきたいと思っています。

株式会社須田商事 菊地正浩さん

特集② 一人ひとりの個性や働き方を尊重

従業員がイキイキと働くことが、生産性や創造性の向上に繋がり、ひいてはお客様や社会へ還元できると考えます。そのために会社は、誰もが働きやすい環境づくりや個人の成長支援などの活動に取り組みます。



女性社員のキャリア形成

ダイバーシティ推進の一環から、社内の女性社員比率や女性管理職比率を高めるための様々な施策を実施しています。その一つに、大学卒業程度新入社員の半数を女性とするような採用活動を行い、2017年度は12名の女性社員が入社しました。比較的男性の多い業界ですが、理系女子学生が持つ知識や能力を十分発揮できるような組織の在り方や職場づくりにも熱心に取り組んでいます。また、入社後に、着実にキャリア形成が行えるように、専門講師およびチームによる「女性リーダー研修」を実施し、次世代の女性管理職の育成にも力を入れています。

また、女性社員が出産・育児中も安心して勤務し、能力を発揮できるよう、託児所を設置、育休制度の見直しも行いました。これらの取り組みにより、2018年1月に「大阪市女性活躍リー

ディングカンパニー(二つ星イクメン推進企業)」の継続認証を得ています。そして、2017年10月には、企業のCSR活動に関する学習を目的とした会社見学も受け入れました。文部科学省によるスーパー・グローバル・ハイスクール認定を受けた大阪府立千里高校(大阪府吹田市)を招待し、女性活躍に関する取り組みと今後の目指す姿について紹介しました。来社した学生からは、女性に限らず誰もががのびのびと仕事に励むことができる環境と感じたとのコメントを頂いています。



くるみんマーク(1つ星)



女性活躍リーディングカンパニー(二つ星イクメン推進企業)



次世代を担う学生へ企業の活動を紹介

従業員から発信する職場環境改善

女性社員のキャリア形成支援と連動し、数年前から従業員主体の「なでしこプロジェクト」を開催してきました。2017年度は、過去の社内アンケートを見直し、育児にまつわる課題に取り組みました。本社勤務者を対象に育児中従業員の交流会「NKC保護者会」を開催し、所属や性別に関係なく30名近くの参加者が集まり盛況裡に終えました。この交流会は、仕事との両立や保育園・学童保育への入所問題など各自の状況を共有することで、悩みを一人で抱え込まない環境づくりを目指しており、今後も継続しながら社内コミュニケーションを活性化する計画です。また、育児関連制度を分かりやすく解説したガイドブックを発行する計画も立て、2017年度は目次の作成まで進め、2018年度には冊子完成、2019年度から各拠点への展開を目指しています。プロジェクトの体制としては、2018年度からは女性だけでなくあらゆる人々

の働きやすさを考えるため、男女からなるメンバーを構成し、「NEXT NKC Project」として始動します。



なでしこプロジェクトの
定例会議



「NKC保護者会」の様子

グループ全社参加の健康イベント

NKCグループは、安心して働ける職場環境づくりには従業員の安全・健康に対する配慮が不可欠だと考え、心身の健康維持・増進に向けた多様な施策を実施しています。法定項目である定期健診、ストレスチェックの他、健診フォロー面談の実施および長時間労働削減を推進しています。2017年度は全社参加型の健康イベントとして、運動習慣定着のきっかけづくりを目的に「NKCウォーキングイベント」を10

月に開催しました。参加者は歩数計などで1か月間日々の歩数を計測、記録し、その累計換算距離を特製MAPで確認、NKCグループの工場を巡りゴールを目指す、というものです。その他に、健康づくりに関心を持つ従業員をサポートするため、従業員が共通して情報に触れる場として社員食堂に注目し、「食事(適量、減塩)」「適量飲酒」「口腔」「運動」に関する健康情報を載せた卓上POPを設置しました。

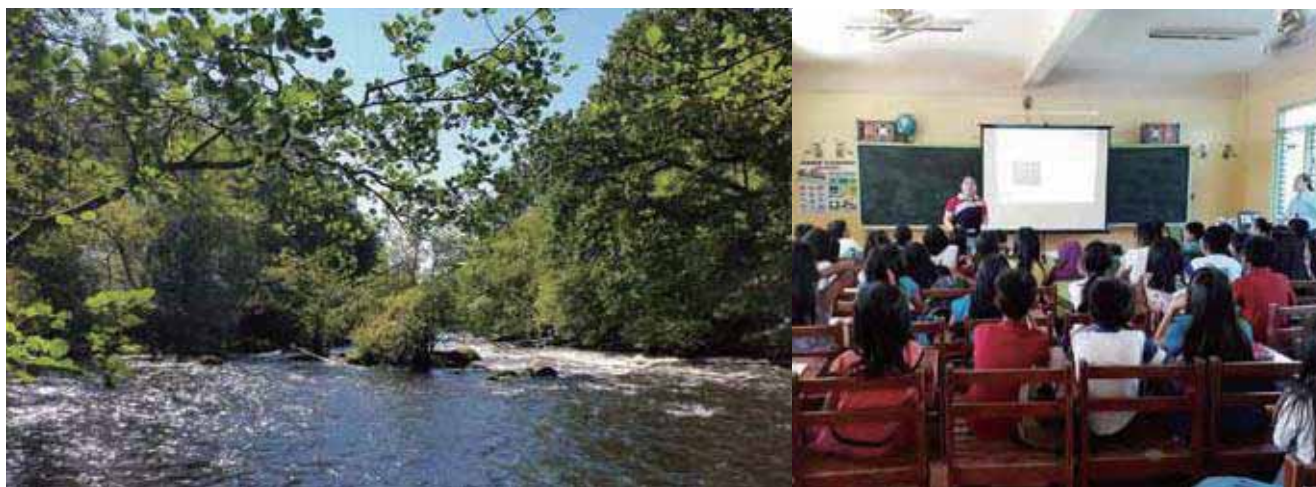


各拠点の食堂に設置されたPOP



特集③ 国境を越えた環境活動

グローバルに事業を展開する会社として、社会的課題への取り組みも日本だけにとどまらず世界各国で取り組む必要があります。様々な課題の中でも環境問題が特に重要と考え、世界各拠点での取り組みを進めています。



グローバルな環境問題として対応が求められているものには、地球温暖化、資源の枯渇、オゾン層の破壊、熱帯雨林の減少、砂漠化、野生生物の種の減少、海洋汚染、途上国での公害問題などが挙げられます。

NKCグループの各海外拠点でも、早くからこれらの問題に取り組み、それぞれの地域に応じた改善活動を続けてきました。

これからも予防原則的アプローチを支持し、より大きな責任を率先して引き受け、環境に優しい技術の開発と普及を奨励していきます。

NSC(スウェーデン ヨーテボリ市)での環境活動



NSCの工場では地球環境保全のために、次のような取り組みを行っています。まずは暖房設備における消費電力を40%低減するための大規模な設備投資を実施し、電力消費低減を実現しました。また、いわゆる「グリーンエネルギー」—水力発電や風力発電、バイオ燃料、そして太陽光発電といった再生可能エネルギー—を利用し地球環境に貢献しています。更に、工場のそばには自然公園がありますが、廃水処理システムにより、生産設備内のリン酸塩処理エリア廃水を確実に管理しています。また、緊急時に市内へ廃水が漏出した場合に備えて、水道システムや河川、土壤に繋がっている井戸を覆うカバーを設置し、定期的にチェックしています。そして、EVとハイブリッド車用の充電ステーションを設置し、従業員がEVやハイブリッド車を選ぶことを推奨しています。というのも、個人の選択が環境に大きな影響を及ぼすからであり、これからは個人・企業レベルでの地球環境保全に努めます。

NKC MANUFACTURING SWEDEN AB
Anna Sjastadさん



充電ステーション



廃水漏洩防止用のカバー

■ NPC(フィリピン セブ州)での環境活動



NPCは従業員が各活動に主体性を持って取り組むことを大切にしています。2018年第1四半期(1-3月)には“The Earth Hour Celebration”という世界最大規模の地球環境イベントに参加しま

した。また、環境担当責任者が地域の小学校へ出向き地球温暖化について子ども達に教えています。社内での取り組みとしては、2018年3月24日午後8:30から9:30の1時間消灯して約320.5kWh節電し、MEZII(NPCのあるセブ島内工業地域)内で0.18トンのCO₂削減に貢献しました。その他、リサイクル服のコンテストや「地球環境保護で人を繋げる」をテーマにした製品コンテストを開催しています。我々は、年間を通じてこの他にも様々な地球環境保護への取り組みを行うこととしています。

NKC MANUFACTURING PHILIPPINES CORPORATION
NPC's Environmental Officersのみなさん



The Earth Hour Celebrationの様子



地域の小学校での地球温暖化講座開催

■ NAI(米国テネシー州)での環境活動



私達NAIの工場では、職場における省エネ活動を通じて、地球環境保全への貢献を目指しています。社内のデスクトップPCを省電力のノートブック型パソコンに変えることや、LED電球の採用を進めることで、電力消費の低減を図っています。この電球1個で最大約590kgのCO₂排出を減らすことができ、米国の全世界帯がこの電球に変えると、照明に使用する電力は半分になるとのことです。また、拠点の域内に植樹し、排出されたCO₂を吸収し緑の地球を維持する取り組みも行っています。たった1本の樹齢10年の木で、ヒト二人分の酸素をつくらることができるそうですから、その効果に期待しています。

NKC OF AMERICA, INC. Gene Bloodworthさん



省電力のノートブックPCに変更



拠点内での植樹活動

■ NMC(米国ジョージア州)での環境活動



NMCは、年間、プラスチック約152トン、段ボール約11トン、スクラップ鉄約8,618トン強を有償でリサイクルしました。また、お客様と協力し物流パレットのリサイクル化(約1,700台/月)を進め、森林保全に貢献し

ています。更に資源のリサイクルを進めるために、Clean Harbors Company社の“Safety Kleen Systems”を使い、工場の廃油をリサイクルすることで新たな製油が供給されるシステムを作りました。このシステムでは、同時に工場廃水も引き取られることから、我々の工場にとっても地元コミュニティにとっても非常に有益な地球環境保全の活動となっています。

NAKANISHI MANUFACTURING CORPORATION
David Voyceさん



廃油のリサイクルシステム

NFC(中国 佛山市)での環境活動



中国でも、国として一層環境保護を重視するようになってきました。それに先駆けて、我々の工場でも環境を重視し活動を進めています。中国ではゴミを分別する習慣が根づいておらず、我々も

以前はあらゆる種類のゴミをまとめて廃棄していましたが、現在ではできる範囲で分別を始め、社員の意識醸成に取り組んでいます。2018年度も国の環境保護法律に従って分別管理を強化する計画であり、生活ゴミや食堂の生ゴミについても、政府市政部門や政府委任業者に依頼して回収してもらうようになります。まだまだ意識づけの段階ですが、社員が分別の重要性を認識するように指導教育を強化していきたいと思えます。

NKC CONVEYOR FOSHAN CO., LTD.
丁 正さん



環境への取り組みを検討



分別用のゴミ箱を設置

NWC(中国 無錫市)での環境活動



近年、中国の環境規制は年々厳しくなっています。そこで我々はCO₂削減に注目し、当年度の活動として生産管理部門において輸送便の削減を検討しました。その結果、お客様にも協力

頂いて発注手順を見直し、輸送トラックが満載の状態でお荷するようになりました。これにより、従来よりも輸送便数が減り、CO₂排出量を従来比で20%も削減することができました。現在は他の輸送便についても同様に見直せないか検討を進めています。今後更に環境規制が厳しくなっていく中、我々の工場でも企業として何をすべきか継続的に考えていきたいと思えます。

NKC MANUFACTURING WUXI CO., LTD.
王 喜喜さん



輸送便削減の協議



輸送便を満載出荷に変更

NDC(中国 大連市)での環境活動



私達NDCの工場では、地球環境保全のために次のような取り組みを行っています。まず、工場内の照明をLEDランプに変え、省エネ化しました。また、オフィス機器の待機時間を減らすために、主にコンピュータ・プリンタ・複写機・飲水機について、終業時に設備の電源OFFを徹底し、事務設備を待機状態にさせないようにしています。更に、職場にある設備を適切に使用することで、設備の寿命を向上させ、エネルギーの無駄遣いを減らしています。水資源についても、作業員銭湯用水時間の管理を徹底し、使用時間や節水を意識して水の無駄遣いを減らすよう努めています。

NKC MANUFACTURING DALIAN CO., LTD.
江 錦華さん



照明をLED化



エネルギー効率使用のための設備操作規範

特集④ 新事業の創出：農業ビジネス参入

会社全体で積極的に取り組んでいる新規事業の中には、若手や中堅社員の育成研修から発展したのものもあり、いずれもこれまでのNKCグループにはなかった“農業”という新しい分野への参入を目指しています。



次世代型農業における試験栽培の開始

将来経営の中核を担う若手・中堅社員を対象とした育成研修「経営人財塾」において、2015年度から2016年度にかけて次世代型農業（環境制御やIoT技術を取り入れたもの）の検討を進めてきました。2017年度からは研修を離れて社内に専任担当者を置き、本格的に事業化へ向け始動しました。滋賀県湖南市に栽培ハウスを設置し、最新の技術を用いて高糖度トマトの栽培を行うことで当社における農業技術を蓄積し、新しい農業技術の開発を行っていきます。また同時に自治体

や関係者との連携を行うことで、認知度の向上や地域貢献を推進していきます。



専用の栽培ハウスを設置



最新の技術を用いたトマト栽培の様子

農家に寄り添う製品・サービスの開発

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科・奥出直人教授の主導の下、新規事業創出をテーマとした若手育成研修から農家の相棒「agbee(アグビー)」は生まれました。日本の農業は高品質な作物を作る一方で、重労働かつ多量な作業が伴う大変さがあります。農業に携わる方々に新しい価値を感じてもらいたい、そんな思いから現地調査を最重視し開発を進めています。自動で人に追従しながら重量のある作物を運搬する機能をはじめとして、土壌センサーを用いて土の状態を把握できるようにするなどのサービスを提供すべく、2018年度には大阪府下の農家の協力を得て試験導入が決まっています。将来的には「agbee(アグビー)」をブランド化し、世の中に貢献する様々な製品やサービスを生み出しながら、農業から生まれるライフスタイルを提案していきたいと考えています。



agbeeは自動追従で収穫した作物を運搬



東京・大阪での農業関連展示会へも出展



詳細報告

従業員とともに

NKCの考え方

NKCビジョン「社員が社員である事に誇りを持ち続け、常に変革する企業を目指す」の下、グループの一人ひとりが持てる力を最大限に発揮し、社会の発展へ貢献できるように、多様な人材の積極的な登用、適切な人材育成、そして、労働環境の整備を推進しています。

また、常に公正な労使関係を維持し、グループ全体で新しい価値を創造できるよう、日々、努めています。



2017年度の活動トピックス

雇用・育成・活躍促進

優秀な人材の獲得へ向けて

正社員に占める女性比率

10.8%

※前年比10.2%UP

次世代を担う優秀な人材の獲得に向けて、NKCグループでは若い世代が活躍できるような組織作りに注力しています。

中規模企業である当社は、比較的少人数の組織で構成されていることから、組織内では年齢・性別・国籍・キャリアに関わらず、「チャレンジする人」が自ら率先して事業を動かすことも可能です。入社までに培ったスキルや経験を、グローバルな舞台で活かし、事業を通じた自己実現や積極的な社会貢献ができるような環境づくりをしています。

また、近年では、主要な事業に加え、様々な新規事業への取り組みも積極的に行っていることから、若い人材が持てる能力を発揮し、主体性を持って活躍できる場を提供しています。



社内プロジェクトを通して若手従業員が会社について考える機会も提供

スキルアップ・キャリア形成教育

研修実績

6拠点93名

NKCグループでは、自社と社会の発展に貢献できる人材を育てるため、多様な機会を提供しています。

2017年度は、本社および国内工場の従業員を対象に、定例の研修に加え新たな育成研修を導入・実施しました。

■入社時研修

新入社員は、入社後に工場を訪れて自社の製品や技術について直に学びます。その後、英語能力の向上を目的に、フィリピンでの語学研修を実施、語学のみならず、異文化経験を学ぶ機会を提供しています。

■2年次研修

入社2年目の従業員には、改めて一企業人として、また、NKCGループのメンバーとしての意識を確認するための研修を実施し、フォローしています。

■女性リーダー研修

次世代の女性管理職を育成するため、「NKCG組織開発研修」の一環として中堅層の女性社員を対象に、外部講師による「女性リーダー研修」を新たに実施し、講義や課題制作を通して意識改革や業務スキル向上などを図っています。

■2018年度の計画

2018年度は、以上の研修の継続に加え、将来リーダーとなりうる人材の早期教育を目的とした若手社員対象研修「若手キャリアアップ研修」も実施します。ポテンシャルのある人材の能力を引き出し、自社と社会へ貢献できるよう、積極的な育成を図っていく計画です。

ワーク・ライフ・バランスの推進

事務系拠点

在宅勤務制度を

本導入

NKCグループでは、従来、ワーク・ライフ・バランスを重視した働き方を推進しています。男女とも仕事と家庭の両立が図れるよう、社内諸制度の改善や託児所等の整備、従業員による職場改善プロジェクトを実施しています。

2017年度は、前年度にトライアル実施した在宅勤務制度を事務系拠点で本導入しました。通勤時間の削減や、中断無く集中できる時間を確保することで、業務の効率・生産性が向上するとともに、精神的な健康の促進やワーク・ライフ・バランスの向上などの効果を期待しています。今後も、在宅勤務を中心としたテレワークを推進していく計画です。

「人生100年時代」と言われる昨今、ワーク・ライフ・バランスで得られた「豊かな時間」を有効に使うために、「企業人」から「社会人」として、自身の家庭はもとより社会課題へ関心を向け、個人で何ができるのかを考える時間を持ってほしいと考えています。ワーク・ライフ・バランスから得られる一人ひとりのアイデアや行動が社会を変え、誰もが心豊かに暮らせるよう、責任ある社会人として社内外の活動に取り組むことを願っています。



制度・設備の充実によりワーク・ライフ・バランスを推進

安全・健康管理

年度重点施策の概要と結果

職長能力向上研修参加者

6拠点 36名

2017年度は、朝礼を活用した安全教育やKY・5S推進などの定例活動に加え、各職場での安全の責任者である職長を対象とした能力向上教育を、本社および国内各工場から計36名に対して実施しました。一般的な事例に加え、NKCグループ独自の事例を交えながら、災害の真の要因を見つけて解決したり、災害に繋がる可能性のある問題を見つけ出すことに重点を置いた実習を行いました。このような“意識づくり”を醸成していくことで、ゼロ災害を目指しています。



職長能力向上教育の様子



事例を用いた演習の様子



発表の様子

安全第一のための意識醸成

安全衛生手帳改定

全拠点従業員へ 配布

NKCグループでは、労働災害を未然に防ぐため、従業員への意識付けに注力しています。雇用形態に関わらず全従業員に対し「安全衛生手帳」を配布し、日々の活動に活用されていますが、法令改正やトレンドなどを採り入れて10年ぶりの改定しました。更に、地震発生時の初動対応を新たに追加しています。今回の改定では、労働災害発生のおよそ8割に重点を置き、ヒューマンエラーに関する内容を充実させるとともに、NKCグループで定めている危険・有害な作業である「重点7作業」や、これに準じる「危険作業」に関する内容を刷新し、日頃の安全衛生教育に有効に使えるツールとしています。



改定された安全衛生手帳



心身の健康管理

ウォーキングイベント参加者

12拠点 998名

NKCグループでは「健康経営」を目指して、社員の健康増進と適切な健康管理のために各種の取り組みを行っています。2016年より全国衛生週間の10月に、健康手帳を配布し、健康的な生活についての啓発活動をはじめ、社員参加型の健康づくりイベントを実施することで、楽しみながら健康増進を図るとともに、職場や家庭での健康管理について意識向上を図っています。これまでの取り組みが評価され、2017年度には「第3回大阪府健康づくりアワード 奨励賞」を受賞しました。

2017年度は、10月の1か月「NKCウォーキングイベント」を、12月と3月には弊社グループ企業が運営する旅館で「スマートステイ」(フィットネスと健康指導および温泉による心身養生をテーマにした宿泊イベント)を開催しました。

「ウォーキングイベント」には998名(グループ従業員の約50%)が参加し、特に工場に所属する従業員の参加が多く約7割にも達しました。この他、期間中には、本社・工場内にポスターやポップを掲示し、健康管理について啓発活動を行いました。「スマートステイ」は、有馬温泉旅館の特性を活かし、専門のスタッフによる運動指導・健康指導をはじめ、地元の食材を用いた健康に配慮した料理と温泉で、健やかな心身のためのイベントを行いました。

これらは、NKCグループのビジョンの下、従業員が職場でより高いパフォーマンスを発揮できる、健康経営を目指したもので、今後も様々な取り組みを行ってまいります。



大阪府健康づくりアワード奨励賞受賞

労使関係

労使間のコミュニケーション

定年後再雇用者の勤務形態

原則フルタイム雇用にするด้วย合意

従業員の雇用・職場環境向上のため、定期的に労使協議会を開催し、労使間の適切なコミュニケーションを図っています。労使で構成される「定年後再雇用制度検討分科会」において、2017年度に同制度について労使合意が整い、定年後、従業員自らが働き方を選択できるようになりました。今後は、更なるワーク・ライフ・バランスを進め、総労働時間削減を含めたES(従業員満足度)向上に向けた労使の取り組みを継続協議していきます。

有給休暇・労働時間削減への取り組み

2018年度より 所定内労働時間削減分科会

立ち上げ

NKCグループでは、従来、ワーク・ライフ・バランスを重視した働き方を推進し、総労働時間の削減や有給休暇の取得率向上に努めています。その中で、労働組合とともに「所定内労働時間削減分科会」を立ち上げました。管理部門を中心とした間接部門では、管理職が自部門の業務/時間管理を適切に行うための施策を実施し、工場等の直接部門では、生産性の高い操業を実現することで、従業員が各職場で効率的に働き、家庭やプライベートにおいて心豊かな生活を送れるよう、全社的に取り組んでいます。



詳細報告

お客様・取引先様とともに

NKCの考え方

「品質の確保と向上」は、当社の製品や技術、サービスをご利用頂くお客様との大切な約束です。

NKCグループは、創業以来、全てのお客様に対し、常に高品質かつ信頼される製品、技術そしてサービスを提供するために不断の努力を重ねてまいりました。当社の品質保証・管理方針に基づいた体制を構築し、各事業部・部門が、製品・技術・サービスの品質維持と更なる向上のための様々な取り組みを行っています。

グローバルに広がるお客様のあらゆるご要望にお応えするためにも、当社の国内外の生産製造拠点はもとより、協力会社やサプライヤーの皆さまと協働し、常に高いレベルでの品質管理と維持に努めています。加えて、お客様のご要望に適った高品質の製品・技術・サービスをご提供するのみならず、当社独自の品質基準を持ち、他社にはない品質の確保を目指して常に研鑽しています。

2017年度の活動トピックス

品質保証・品質管理

品質の維持・向上へ向けて

■ 軸受事業部

“市場最高の品質を経済的に達成しよう”をスローガンに、軸受事業部技術本部品質保証グループと国内外の生産拠点(計7拠点)の品質保証担当部門が一丸となって、製品の品質維持および向上に努めています。従来製品である軸受保持器に加え、自動車部品や風車、新幹線向け製品といった日々の生活を支え動かす製品の品質確保はもちろんのこと、国際的な品質管理規格であるISO9001※1やIATF16949※2に準拠したマネジメントシステムによる品質管理を、内部監査等の実際的な活動を通じて徹底しています。また、グローバルな品質管理および品質保証体制の充実化のために、月次での「品質会議」や年1回の「グローバル品質会議」において情報交換を行い、品質管理における原則の共有を図っています。このような定期的な国内外の生産拠点とのコミュニケーションに加え、国内の製造拠点においては、本社品質保証グループによる「品質保証・管理」に関する段階別の研修を実施、製造現場における「品質保証・管理」の意識の浸透を行っています。

事業部がこれまで培った品質保証・管理における実績は、多くのお客様より高い評価を得ていますが、更に高品質かつ信頼される製品を安定して市場や社会へ提供するために、次世代の人材育成とIT化を進めています。



グローバル品質会議の参加メンバー



※1ISO9001：品質マネジメントシステム(QMS: Quality Management System)を確立し、これを維持しながら有効性を継続的に改善することを要求する規格。
※2IATF16949：自動車産業における国際的な品質マネジメントシステム規格で、IATF(国際自動車産業特別委員会)が作成したもの。

■ 輸送機事業部

“止まらないコンベア、止まってもすぐに復旧できるコンベア”をスローガンに、日々の品質向上と維持に努めています。事業部の生産拠点は国内外計3拠点ありますが、定例の幹部クラスによる会議をはじめ、本社が各拠点の情報を統括し各拠点へ発信することで、本社および各拠点が常に情報共有を行い、迅速かつ適切な対応を行えるような対策をとっています。

国内の生産拠点である滋賀工場は、全世界の「マザー工場」として、製造現場における品質管理の徹底を、本社はお客様や工場および製造現場からのフィードバックを設計図に活かすことで、更なる品質の向上を目指しています。

滋賀工場では、各部門における業務マトリクスの評価基準を定め、各人のスキル分布図を作成しています。また、工場独自の「マイスター制度」を採用、現場作業における技術基準を設定し、スキルを「見える化」しています。この「マイスター制度」によりスキルレベルに応じた作業指導や教育を実践することで、確実な品質の維持と向上に役立てています。

これらの活動を含め、今後もお客様から高評価を頂き、社会に貢献できる製品を生み出せるよう、様々な取り組みを行ってまいります。



海外拠点との定例会議の様子

■ 特機事業部

“市場最高の品質を経済的に達成しよう”をスローガンに、国内外(3拠点)の管理体制の構築に向けて、作業者を巻き込んだ活動を行っています。品質活動方針は、前年度実績やお客様からのご要望に基づいて毎年方針を決め、国内外の生産工場および協力工場様のご協力により、安心・安定した部品・完成品の作り込みに努めています。

生産工場では改善活動の取り組みとして、作業者が作業で困っている事、作業性の悪い工程を自ら改善して、成果を上げています。改善した内容は、国内外の生産拠点で情報を共有化し、水平展開を行っています。

また、品質管理レベルアップのため、新たな管理方法を模索し、品質が安定するための活動を進めています。

特機事業部・品質保証グループは、品質問題を起こさない体制づくりのため、人材育成(社内・社外)を行い、管理レベルの向上により、お客様から今以上に高い評価を頂ける『ものづくり』を目指して活動を展開中です。



工場での品質説明会の様子



工程改善検討会の様子

責任あるサプライヤーとして

調達責任・供給責任

企業の社会的責任に配慮し、 調達・供給を実施

■ 適正取引

NKCグループでは、下請法や独占禁止法を中心に、自由な競争を阻害する行為や不正な競争行為が発生しないよう、調達活動に関わる法令等の遵守を常に意識し事業活動を行っています。取引の過程で生じる疑問・質問に対応する窓口担当者を社内置き、適正な取引の徹底を図っています。

■ 知財尊重

拠点所在地および取引のある各国・地域の法令や社会規範等を遵守することはもとより、開発・生産活動において第三者の知的財産権を侵害することがないよう、専任の知財担当部署を設置し管理しています。企業にとって重要な経営資源である知的財産について、自社の権利を守るだけでなく、他社の知的財産を尊重するよう引き続き徹底していきます。

■ 紛争鉱物

コンゴ民主共和国をはじめ周辺諸国で産出される鉱物の一部は、武装勢力の資金源になっていると言われています。複雑なサプライチェーンの過程で、このような人権侵害や環境破壊に加担する可能性のある「紛争鉱物」の調達・使用を行わないことは、責任ある企業の務めです。

NKCグループでは、「紛争鉱物」の調達およびそれらから生み出された製品の供給はせず、対象となる鉱物の取り扱い状況は、お客様より頂戴するアンケート等を通じて明確にしています。

リスクへの対応

事業継続のためのリスク対応活動 国内全拠点展開・浸透中

■ 地震災害想定BCP

NKCグループでは大規模地震の発生に備えたBCP※1を2012年に本社で制定し、現在は国内全拠点および海外一部拠点への展開を完了しています。

2017年度は、策定したBCPに基づき人命確保および本部の運営体制構築を目的とした訓練を重点的に実施しました。前年度に本社で実施した本部運営訓練を工場へ展開したほか、これまで火災想定のみだった避難訓練について地震想定を新たに加え、本社にて600名あまりが複数の建屋から一斉に屋外へ避難する一斉避難訓練も実施しました。更に、出張中や就業時間外に地震が発生した場合に備え、以前から回収を続けている緊急連絡先情報についても、毎年恒例化し呼びかけを強めることで従業員の登録率を高めることに力を入れています。



本社にて地震想定の一斉避難訓練を開催



屋外用防災キャビネットを配備

そして、地震発生直後から必要となる備蓄品について、改めて各工場の保管品を見直し、賞味期限の確認と必要に応じて入れ替えを一齐に実施しました。年度内に賞味期限切れとなる予定の備蓄食品については、ある程度期限に余裕のあるものを従業員に配布し、社内だけでなく家庭においても防災の意識を高めてもらえるよう促しました。また、拠点内には防災キャビネットを複数設置し、屋外避難時に活用できるよう備えています。

さらに、地震発生直後の行動手順について、分かりやすい文章とイラストを作成し、全社で配布される「安全衛生手帳」に新たに追加しました。昨今、災害時の帰宅困難者の問題が深刻化していることから、過去に配布した安否確認カードの改定版として帰宅等に関する注意喚起を含めたものを2018年度以降作成していく計画です。

■ 情報セキュリティ

内外様々な要因によって会社の機密情報が紛失・損壊・漏洩・悪用されることがないように、本社および国内外の拠点へ「セキュリティ安全管理規定」を展開しました。資料の保管やアクセス管理、委託先管理など、人的・物理的・電磁的な情報の取扱い手順を定め徹底すべく、規定を展開した拠点から順に内部監査を実施することで、実際の運用状況を確認するとともに、改善・向上のための指導を実施しています。NKCグループ全体の情報セキュリティ対策の強化へ向け活動を継続していく計画です。



工場対象 災害対策本部運営訓練を実施



工場ごとに様々な訓練を企画・実施



情報セキュリティハンドブックを配布



説明会やハンドブックの配布を通して周知徹底



※1BCP: Business continuity plan(事業継続計画)の略称であり、災害や疫病蔓延など、事業継続に影響を及ぼすような緊急事態に対して、企業が損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための事前計画のこと。



詳細報告

地球環境とともに

NKCの考え方

NKCグループは、従来より、生産活動における積極的な環境に対する取り組みはもとより、各社員が「地球環境保全」を意識しながら自らの業務/作業に携わっています。また、様々な省エネ活動だけでなく、環境事業を通じて再生可能エネルギーを創出することでも、地球温暖化防止に貢献しています。

また、NKCグループは米国、スウェーデン、フィリピン、中国にも生産拠点がありますが、各拠点とも地球環境保全に積極的に取り組んでいます。各国の法規制を遵守は当然のことながら、慣習も考慮した適切な環境管理を行っています。

2017年度の活動トピックス

環境負荷低減・地球温暖化防止

環境活動の促進・意識醸成

環境方針改定

NKCグループとして 新たに方針を 策定

2017年4月に「NKCグループ環境方針」を改定しました。ISO14001^{※1}の規格要求事項の変更に伴い、事業所や生産拠点における省資源化の推進や従業員への教育を通じて、「環境パフォーマンスの向上」を実践することを明記しました。NKCグループは、この環境方針をグループ全体の基準として環境管理を徹底し、地球環境の保全に貢献していきます。

今回の改定に伴い、全従業員を対象に朝礼や全体会議における地球環境保全のための啓発活動、オリジナルの教育資料を用いた説明会を行いました。

また、6月の環境月間に合わせた啓発活動として、「環境標語」の募集およびポスター作成なども実施しています。



※1 ISO4001:国際標準化機構(ISO)が発行した環境マネジメントシステムのこと。当グループでは、2018年1月までに国内軸受3工場、天満製鉄・EPD室、富士ホーニング工業がISO14001の移行審査を完了し、2015年版の新規格に則った認証を継続しています。

環境方針

“NKCグループは、企業行動憲章に従って事業活動の全般に亘り、製品及びサービスが及ぼす内外への環境負荷を低減し、地球環境の保全に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献します”

- ① 環境マネジメントシステムを継続的に改善することで、環境パフォーマンスの向上を目指します。
- ② 事業活動に関連する法令・条例やNKCグループが同意したその他の要求事項を順守します。
- ③ 環境に関連する教育や啓発活動を推進し、環境保全への意識と知識の向上を図ります。
- ④ 環境汚染の予防に努めるとともに、資源・エネルギーなどの環境負荷の削減に取り組みます。
- ⑤ 国や地方公共団体などが実施する環境保全活動に協力し、積極的に参加します。

省エネ活動

社用車へのエコカー

※国内生産拠点 **導入率 98%**

NKCグループでは、地球温暖化防止のため、国内外の職場や生産現場において、省エネを推進しています。

省エネタイプの生産設備や空調機器、照明設備などを積極的に導入、屋根や壁面の断熱化なども実施しました。

また、本社を含め国内生産拠点の社用車のほぼ100%がエコカーを採用しています。

社員が身近に省エネ活動に参加できるように、環境省の「Fun to Share^{※2}」「COOL BIZ^{※3}」「WARM BIZ^{※4}」「COOL CHOICE^{※5}」を展開、地球環境保全のために一人ひとりができることを実践しています。



※2 Fun to Share: 低炭素社会づくりに向けた環境への取り組みを共有し発信する気候変動キャンペーンのこと。宣言企業の取り組み内容はウェブサイトを確認することができます。

※3 COOL BIZ: 夏場の電気節約を目的とした、夏のビジネス用軽装の推奨運動。(実施期間は5月～9月)。

※4 WARM BIZ: COOL BIZの冬期版。過度に暖房に頼らず、厚着をするなどして室温20℃でも働きやすいように取り組む運動。(実施期間は11月～3月)

※5 COOL CHOICE: 気候変動対策および温室効果ガス排出削減を家庭や職場で実践する取り組みのこと。

実践項目

1. 二酸化炭素を削減するために私は:

- ① 使わない場所の照明を消します。
- ② 昼休みには消灯します。
- ③ パソコンを30分以上使わない時は電源を切るかスリープモードにします。
- ④ 冷房温度は28℃以上、暖房温度は20℃以下を目安にします。

2. 廃棄物の埋立量を削減するために私は:

- 廃棄物を分別表に従って分別します。
“分ければ資源 混ぜればただのゴミ”

環境標語

“次世代へ残そう クリーンな地球”

省資源活動

ゼロエミッション

継続 **11** 年目

省エネ活動とともに、省資源活動もNKCグループを挙げた取り組みを行っています。各事業所や生産拠点において、廃棄物削減のため、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、11年連続でゼロエミッション^{※6}を達成しています。

また、環境負荷の低減のために、定期的に協力業者の皆さまへの環境アンケートなどを実施し、適切な環境管理活動に努めています。



※6 ゼロエミッション: zero emission (=ゼロ 排出)。リサイクルを徹底し、ひとつの企業だけでなく異業種との連携により、社会全体で廃棄物を利用しつづけて最終的な廃棄物をゼロにしようとする考え方。



環境標語ポスター

環境事業

発電事業の経過

事業を通じたCO₂排出削減量

3,950トン

■ 太陽光発電事業

2017年度の発電量(実績)は以下の通りです。

● なばり太陽光発電所:

520,405kW・CO₂排出量削減効果→約250トン

※中部電力(株)の排出係数0.485kg/kWhを使用し算出したもの。

● むらやま太陽光発電所:

1,917,920kW・CO₂排出量削減効果→約1,100トン

※東北電力(株)の排出係数0.572kg/kWhを使用し算出したもの。

なばり・むらやま発電所とも計画通りの発電を行っていますが、ソーラーパネルや設備の経年劣化に対処するため、定期的な点検や補修を行っています。2018年度はなばり発電所の5年次点検を実施し、適切な補修を行うことで引き続き計画に沿った発電を実現していきます。



むらやま太陽光発電所

■ バイオマス発電事業※1

山形県長井市「ながいグリーンパワー」、2017年度の発電量(実績)は以下の通りです。

● ながい木質バイオマス発電所:

4,532,090kW・CO₂排出量削減効果→約2,600トン

※東北電力(株)の排出係数0.572kg/kWhを使用し算出したもの。

ながい発電所も当初の計画通りに設備が稼働し、売電が開始されました。ながい発電所は、国内では数社のみが採用している「アップドラフト式ガス化炉方式」で発電しています。ながい発電所では、100%国内産木材の間伐材から生産されるチップのみを使用して発電を行うため、通常のあらゆる木質素材を用いる「直接燃焼式」とは異なり、まさに、環境に配慮した再生可能エネルギーの発電所であることが評価されています。今後は発電時に発生する廃熱を利用して近隣の福祉施設へ温水を供給するなど、更なる地域貢献を行えるよう事業に取り組んでいきます。



ながい木質バイオマス発電所



※1 バイオマス発電事業：化石燃料以外の生物由来の再生可能資源「バイオマス」を燃料として発電する事業。

生物多様性保全

カーボン・オフセット^{※2}

2017年度までのオフセット総量

281トン

職場や生産現場におけるCO₂排出量削減とともに、カーボン・オフセットを取り入れており、2017年度の実績は60トンとなりました。

オフセットの対象は、以下の通りです。

- シー・ティー・マシン株式会社:
省エネ型照明の電気使用量の一部→29トン
- 本社:
社用車使用化石燃料量のCO₂換算分→31トン

NKCグループの取り組みは、“カーボン・オフセット推進ネットワーク”が主催し、環境省、経産省、農水省が後援する“カーボン・オフセット大賞”で、第4回および第6回の事例集にも掲載されています。

NKCグループでは、これからも生物多様性保全の一環として、CO₂排出量削減に取り組んでいきます。



※2カーボン・オフセット：事業活動に伴う温室効果ガスの排出をできるだけ削減努力し、どうしても削減できない排出分を、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業など(排出権購入)により埋め合わせるという考え方。

NKCグループ悠久の森

育樹イベントへの参加従業員

46名

NKCグループでは、和歌山県が推進する「企業の森」活動に2016年度から参加しています。世界遺産の熊野古道が通る田辺市中辺路町の森林地をお借りし、「NKCGグループ悠久の森」と名付けて植樹・育樹活動を続けています。

2017年度の育樹イベント当日は、残念ながら雨天となったため、現地の森林組合様のご協力で屋内でできるプログラムを組み、各拠点から46名の従業員が参加し、自然を身近に感じながら楽しい時間を過ごすことができました。初年度に植えた苗木が大きくなり、自然が豊かに育まれるよう、今後も活動を継続していく計画です。



地域住民が講師となりクリスマスリースづくりを体験



大盛り上がりとなった丸太切り競争



詳細報告

地域社会とともに

NKCCの考え方

NKCCグループは、現在そして未来のために様々な貢献活動を通して地域社会と良好な関係を築き、企業と社会が共に存続・発展することを目指しています。貢献先との対話を大切に、NKCCグループが持つ知識や技術、経営資源を地域社会に還元することで、本当に必要とされる貢献活動を展開します。



2017年度の活動トピックス

社会貢献活動

社会貢献実施方針の整備

社会貢献ポリシー

新たに制定

NKCCグループが実施する社会貢献活動について、その目的・対象・手段を明らかにすることで、より計画的かつ効果的な活動を実施できるよう、新たに社会貢献ポリシーを作成しました。

● 社会貢献に対する基本的な考え方・姿勢

NKCCビジョン	
NKCCは、社員が社員である事に誇りを持ち続け、常に変革する企業を目指す。	
企業行動憲章	NKCCスタンダード
事業活動を通じて積極的に社会的課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。	良き企業市民として地域社会の文化的・経済的な発展に貢献します。

● NKCCグループが取り組む地域社会貢献活動(重点分野)

青少年の育成支援	自然環境の保護
将来ある子ども達が健やかに育ち、能力や可能性を最大限に発揮できるよう、様々な経験や学習の機会を提供します。	豊かな自然環境を守り、人と自然ともに生きる地域社会を築けるよう、環境保護や環境教育などの活動に取り組めます。
防災力向上・災害復興支援	地域参加
地域の防災力向上に取り組み、また、自然災害による被災地の復興のために積極的に協力します。	コミュニティの一員として地域のご要望を取り入れた活動を実施し、イキイキとした地域づくりに貢献します。
社会福祉の向上支援	社員のボランティア活動支援
あらゆる人々が健康で豊かな生活を送ることができるよう、医療や食生活、社会参加など様々な面から支援します。	社員が積極的にボランティア活動に参加することができる環境をつくるため、主に制度面で取り組みを支援します。

日本国内の活動

国内社会貢献活動実績

13拠点 **128**件

NKCグループでは長年にわたり拠点ごとに積極的な社会貢献活動に取り組んできました。2013年度からは全拠点の社会貢献活動を本社が集約し、計画的に活動を進めています。

■ 中高生の会社見学受け入れ

本社および各工場にて、学生の見学を受け入れています。2017年度は、社会見学や課題研究の一環として、また将来就職を検討中であるなど、色々な目的を持った中学生や高校生を多数受け入れました。



会社見学を多数受け入れ

■ 奨学金・研究助成金の給付

1971年から続く「一般財団法人中西奨学会」にて、2017年度は奨学生50名と研究助成機関5件を採用しました。2017年8月には、大学・大学院奨学生を対象に懇親会を開催し、中西金属工業本社を会場として財団およびNKCグループの紹介や社内案内などを実施しました。



大学生奨学生を対象とした懇親会を開催

共生意識の醸成

従業員によるボランティア活動の支援

ボランティアアンケート

国内 **7**工場を対象に実施

NKCグループでは、会社としての社会貢献活動に社員の参加を促すとともに、社員個人がプライベートで取り組むボランティア活動にも目を向け、サポートしたいと考えています。

そこで、まずは個人でボランティア活動に取り組む社員がどの程度おり、会社に対してどのようなサポートを期待するのかアンケートを実施しました。その結果、地域活動への参加を中心に、児童や高齢者、障がい者への支援団体に参加するなど、多種多様な取り組みが見られました。会社に対しては、ボランティア休暇制度など制度面の整備を希望する声が多数挙がりました。このアンケートを基に、今後は奨励制度や休暇制度など様々なサポートツールを導入していきたいと考えています。

今回のアンケートで集まった228件の事例の中から、数名をピックアップし、本報告書の特集ページにて活動を紹介しています。



社員向けアンケートを展開

● アンケートの実施結果(主な意見:228件より抜粋)

活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団活動への参加 ● 地域イベントの開催協力 ● 自主的なゴミ拾い活動 ● 献血協力 ● マラソン大会でのボランティアスタッフ ● ボーイスカウト等での青少年の教育・指導
会社へ期待すること
<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア休暇制度の整備 ● ボランティアポイントの積み立て ● ボランティア活動に対する表彰

持続可能な社会への更なる貢献に向けて

NKCグループは創業以来大切にしてきた“ものづくり”を軸に、職場のダイバーシティやワーク・ライフ・バランスを進めるとともに、豊かでイノベティブな技術と製品・サービスを創出し、企業の社会的責任を果たしながら、これからも持続可能な社会へ積極的に貢献してまいります。

大阪天満工場
NKCグループが大切にしてきた
“ものづくり”



フィットネス
仕事の成果は心身の
健康から

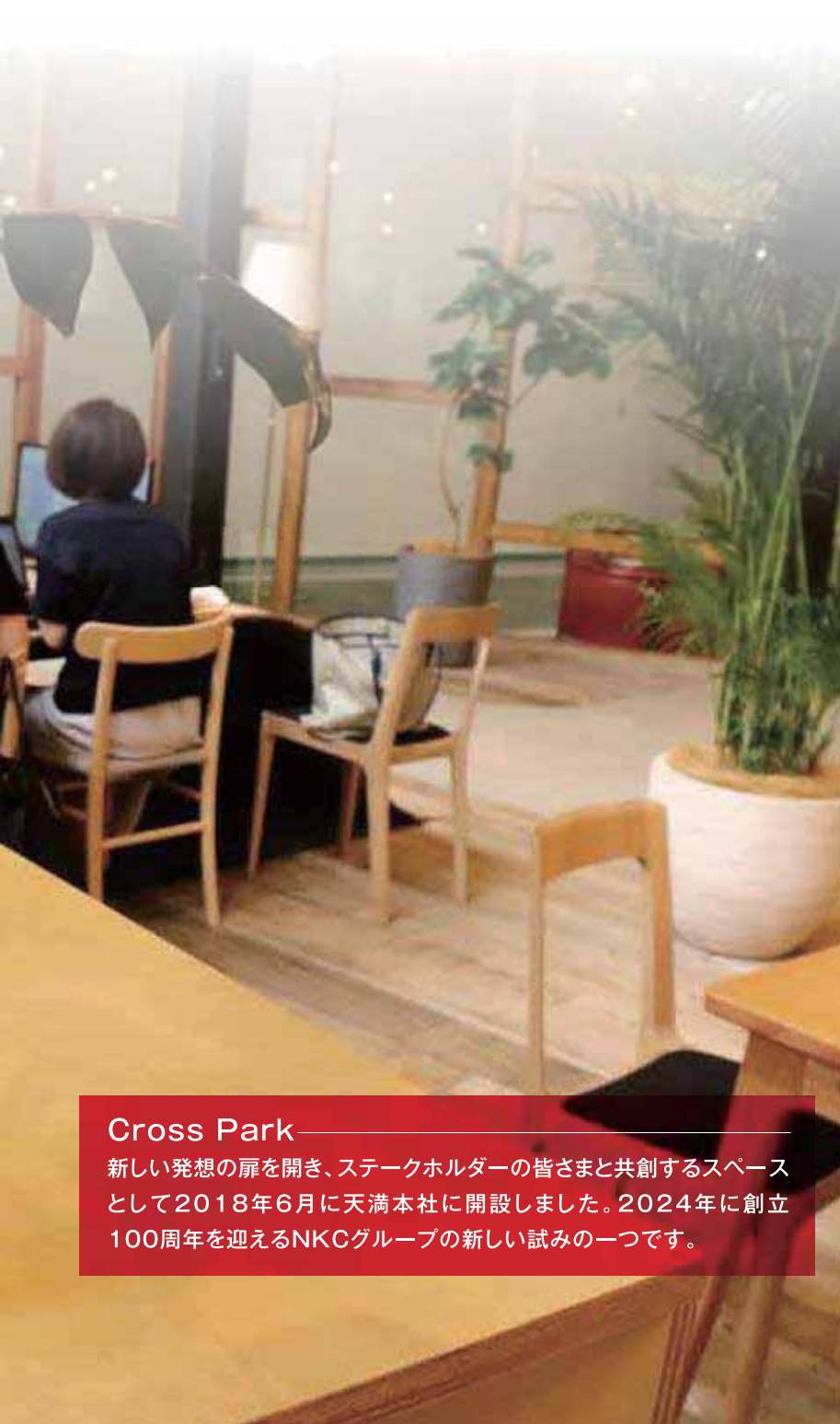


託児所
従業員の家族も大切な
ステークホルダー



Cross Park





Cross Park

新しい発想の扉を開き、ステークホルダーの皆さまと共創するスペースとして2018年6月に天満本社に開設しました。2024年に創立100周年を迎えるNKCグループの新しい試みの一つです。

NKCロゴ

2018年7月、新ロゴ誕生



屋上菜園

グリーンを職場に、地域に



ダイバーシティ


外国籍の職員とともに





中西金属工業株式会社

<http://www.nkc-j.co.jp/>

 <p>WE SUPPORT UN GLOBAL COMPACT コミュニケーション・オン・ プログレス</p>	<p>国連グローバル・コンパクトの原則の実践 状況および国連の様々な目標の支持につい て、このコミュニケーション・オン・プログレス を通じて報告しています。</p> <p>内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。</p>
---	--



くるみんマーク(一つ星)
2016年4月に取得しました。



Fun to Share
環境省が推進する気候変動対策への活
動に賛同しています。